

[成果情報名] 水稲「にこまる」施肥の特徴

[要約] 「にこまる」は穂肥2回施肥が1回施肥に比べ、玄米重および品質の面で安定している。m²当粒数は登熟歩合・千粒重・粒厚との関係からみて上限が30,000粒である。穂肥施用時期の水稲生育とm²当粒数の相関は「草丈×SPAD」が高い。

[キーワード] にこまる 穂肥2回施肥

[担当] 総合農林試験場・作物園芸部・作物科

[代表連絡先] 電話(代表)0957-26-3330、(直通)0957-26-4350

[区分] 農産

[分類] 普及

[背景・ねらい] 水稲新品種「にこまる」における水稲生育と水稲収量構成要素との関係を明らかにし、多収および高品質を満たす施肥条件および施肥時期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 穂肥2回施肥（1回目：N-0.2kg/a(幼穂5mm頃)＋2回目：N-0.2kg/a(出穂10日前)）が穂肥1回施肥（1回目：N-0.4kg/a＋2回目：N-0kg/a及び1回目：N-0kg/a＋2回目：N-0.4kg/a）に比べ、玄米重および品質が高く安定している（表1）。
2. m²当粒数は、多くなるほど玄米重が増加するが、32,000粒を超えると一部低下がみられる。また、登熟歩合、千粒重および2mm以上の粒厚はm²当粒数が30,000粒を超えると低下する（図1）。
3. 穂肥施用時期(幼穂5mm頃)の水稲生育とm²当粒数には正の相関があり、その中でも「草丈×SPAD」が高い（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県内「にこまる」推進地域の栽培指導上の参考とする。

[具体的データ]

表1 穂肥に対する収量構成要素の推移

年次	区名 (穂肥kg/a)	籾数 x100	収量 kg/a	検査等級 (1~9)
2005	0.2+0.2	336	54.1	3.0
	0.4+0	340	58.8	3.0
2007	0.2+0.2	295	62.6	3.5
	0.4+0	291	58.9	5.0
	0 +0.4	258	55.2	5.0

注) 施肥: 基肥:N-0.5kg/a
 穂肥1回目(幼穂5mm頃):N-0~0.4kg/a
 穂肥2回目(出穂10日前):N-0~0.4kg/a

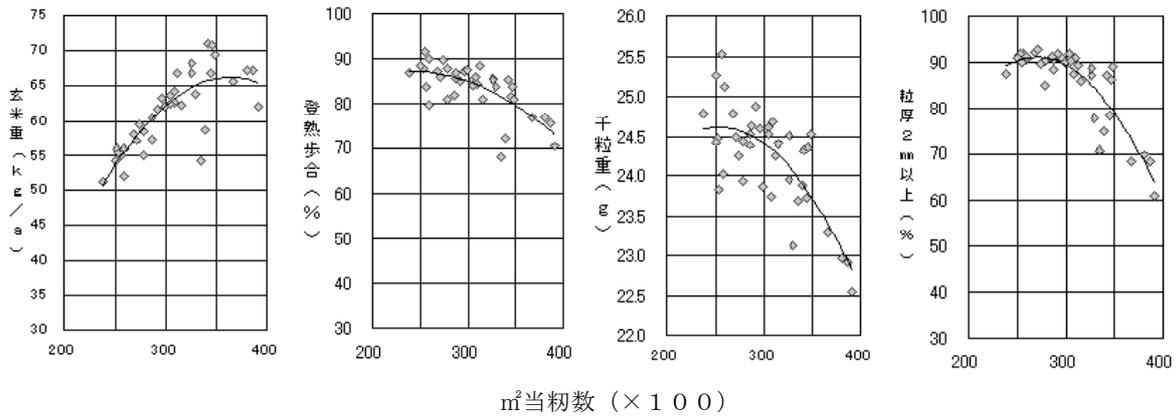


図1 m²当籾数に対する玄米重・登熟歩合・粒厚2mm以上の比率の推移(2005、2007)
 注) 施肥条件 即効性肥料 基肥N:0.3~0.9kg/a + 穂肥1回目N:0~0.4kg + 穂肥2回目N:0~0.4kg/a
 緩行性肥料 N-0.9~1.1kg/a(LPSS100)

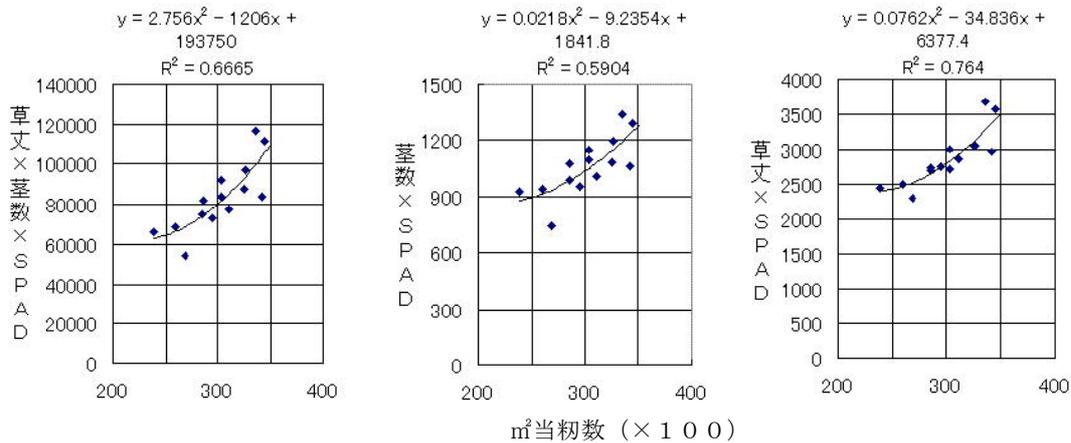


図2 m²当籾数に対する草丈・m²当茎数・SPADとの関係(2005、2007)
 注) 施肥条件 基肥:N-0.3~0.9kg/a 穂肥1回目(幼穂5mm頃):N-0.2kg/a 穂肥2回目(出穂10日前):N-0.2kg/a

[その他]

研究課題名: 水稻新奨励品種「にこまる」の栽培技術確立
 予算区分: 県単
 研究期間: 2005~2007年度
 研究担当者: 大脇淳一、古賀潤弥、下山伸幸、生部和宏